

11 月泉の会 直子先生のお話

——みんなで考えてみよう! ~『考える力』を育てよう~——

『ぜんりんまつり』では温かいご協力を本当にありがとうございました。こどもたちにとって、大きな達成感と喜びに満ちた素晴らしい経験となりました。今日はその経験を振り返りながら、『考える力』を育てるということについて、皆さんと一緒に思いを巡らせたいと思います。

最近、わたしの心に深く残った文章があります。

——手を動かしてみる。頭の中ごちゃごちゃのまま、いい。紙の上に散らかったアイデア。偶然つながって、何かが生まれることもある。正解を速く出すことだけが、考えることじゃない。手探りで、自分の中の答えを見つけていく。頭も心も身体も、ぜんぶぜんぶ使って。だから面白いんだ、考えるって。——

これは新聞の広告にあった文章なのですが、人の『考える』という営みを、とてもよく表していると感じました。わたし自身、皆さんの前でお話する時には、まず紙の上にアイデアを散らかします。ごちゃごちゃの中に、今大切にしたい思いや皆さんと分かち合いたいことが少しずつ姿を表してきます。『考える』ためには『言葉』が必要で、自分の中にある思いを『言葉』にして引き出し、それをどう表現するのかを見つける作業が『考える』ということだと思えます。

また、最近、AI の番組を見ていて、「AI の知能とは“予測能力”」という説明がありました。AI は無難な答えを瞬時に予測して提示しますが、そこには“感覚“や”体験“はありません。けれども人間は、声を聞いて安心したり、遊びの中で感覚を楽しんだり、失敗したりしながら、自分だけの『言葉』や意味を獲得していきます。これは AI には決してできない、人間だけの成長の姿です。

幼稚園で遊ぶこどもたちの頭の中は、まさにごちゃごちゃです。やりかけ、思い付き、寄り道、失敗・・・そんな散らかった状態だからこそ、遊びながら試しながら自分の中の答えをみつけていくのですが、それが『考える』ということなのです。わたしはこどもたちに「どう思う?」「考えてごらん」とよく声をかけます。ポカンとする姿もありますが、それも大切な一歩です。『考える』ためには、自分の言葉を持っていないと『考える』ことはできません。ですから、こどもが話し始めたら、最後まで話を聴いてあげましょう。否定せずゆっくり待つこと。これがこどもの『言葉』と『考える力』を育てます。

さて、『ぜんりんまつり』を振り返ると、まさにこのことがこどもたちの中で起きていました。こどもたちが話し合いを始めたのは4月でしたが、一人ひとりの好きなことはバラバラで、テーマはなかなか浮かび上がってきませんでした。それでも、多数決でまとめようとはせず、機会を捉えては話し合い、担任も提案をする中で、最後の2週間で形にしていきました。クラスの話し合いでは、尾山台フェスティバルで聖歌隊を経験したこどもたちを中心に、「コンサートで歌を歌いたい!」という新たな意見も出され、みんなで曲目を決め、励まし合って実現することもできました。それらすべてを、保護者の皆さんが何一つ否定せず受け止めてくださったことで、共通の新しい経験が生まれ、『言葉』としてつながりました。

経験しさえすれば『考える力』が育つわけではありません。その経験を通して、肯定的な『言葉』が交わされることによって、『言葉』の意味が生まれ、自分の『言葉』として獲得できます。そのような対話こそが、『考える力』を育てます。

こどもたちは、もやもや・ごちゃごちゃのまま、今を全力で楽しみながら育ちます。わたしたち大人も、解決できない課題を抱えると苦しい時もありますが、『考える』ことを諦めることなく、ごちゃごちゃのままの状態でも、「よし!」と受け入れながら、いつか何かが生まれることを願って待てるようになりたいと思います。